

中河内ブロック支援通信

令和6年2月発行
発信:八尾支援学校

R6年1月5日、八尾支援学校を会場に、「R5年度 支援教育地域支援整備事業 第2回中河内ブロック研修：講演」が行われました。

「うまくいかないこと」が「うまくいく」に変わる！ 子どもに自信をもたせ、やる気を引き出す 「かわり方」と「工夫」

講師：作業療法士 宮崎 義博先生



講師プロフィール：奈良県総合リハビリテーションセンター・奈良県障害者総合支援センターにて子ども地域支援事業立ち上げにかかわる。ハートランドしぎさん子どもと大人の発達センター室長。2020年4月よりフリーの作業療法士として学校園への訪問相談、乳幼児健診で保護者向け教室など。※左は御高著になります。

中河内ブロック以外の学校園からの参加を含む180名もの方が宮崎先生の貴重なお話に深く聴き入り、頷いておられました。



↑校内外から集まったたくさんの先生方。
宮崎先生にご持参頂いた教材、関連書物の展示。

熱心に手に取り、写真に収める先生方。→

↓参加者のアンケートより(一部)

・具体的な話をたくさん紹介して頂き、子どもたちを重ねながら聞くことができました。

まず気持ちを認めるところからスタートし、よりよい方法を教えていくことが大切だと感じました。

・一人ひとりの子どもに寄り添って、言葉がけをしていくことが必要であることを改めて実感しました。「褒める」「できたことを認める」をキーワードに実践していきたいです。



宮崎先生のお話を参考に。教室でこんな場面、ありませんか？

AさんがBさんをサッカーに誘っています。Bさんは絵を描きたいようで困っています。担任の先生がBさんの気持ちを代弁すると、Aさんが「ジャマすんなよ！」と激怒しました。



Aさんの気持ち

「Bさんもサッカーがやりたいのに！」
「先生はジャマばかりする！」
「先生はぼくばかり怒る！」



「もっと相手の気持ちを考えなさい！」
「周りを見なさい！」
「すぐにカッとしないの！」



Aさんには「相手の表情が読み取りづらい」「状況の見え方が違う場合がある」といった特性があるかもしれません。Aさんを理解しないまま叱責を重ねれば、不信感は募るばかりでしょう。

まずはAさんについての深い理解を。それからかかわり方を見直し、アプローチします。

SST(ソーシャルスキルトレーニング)の例が紹介されました(SSTは、子どもが自分にとって必要だとわかり、楽しみながら取り組めることが大事とのことです)。



「その子の存在をほめる」

△できていないことを指摘する。
「早く教室に戻りなさい」
○今できていることを褒める。
「もう靴をはきかえたの?すごい!」

行動を
ほめる
存在を
ほめる

好きだよ(愛)
大丈夫?(心配する)
それ何?(気にかける)
おもしろそう!(興味を持つ)

他に、宮崎先生のお話では、「手押し相撲をして踏ん張る」「だるまさんが転んだをして止まる」など、行動をコントロールする経験は、感情をコントロールできることに繋がるとのことです。

「毛布にくるまる」「砂遊び」など、気持ちを落ち着かせるてだてを子どもと相談して、たくさん用意しておくといいこともわかりました。